

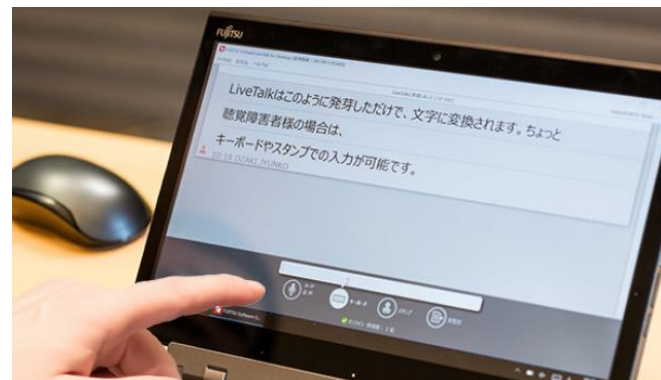
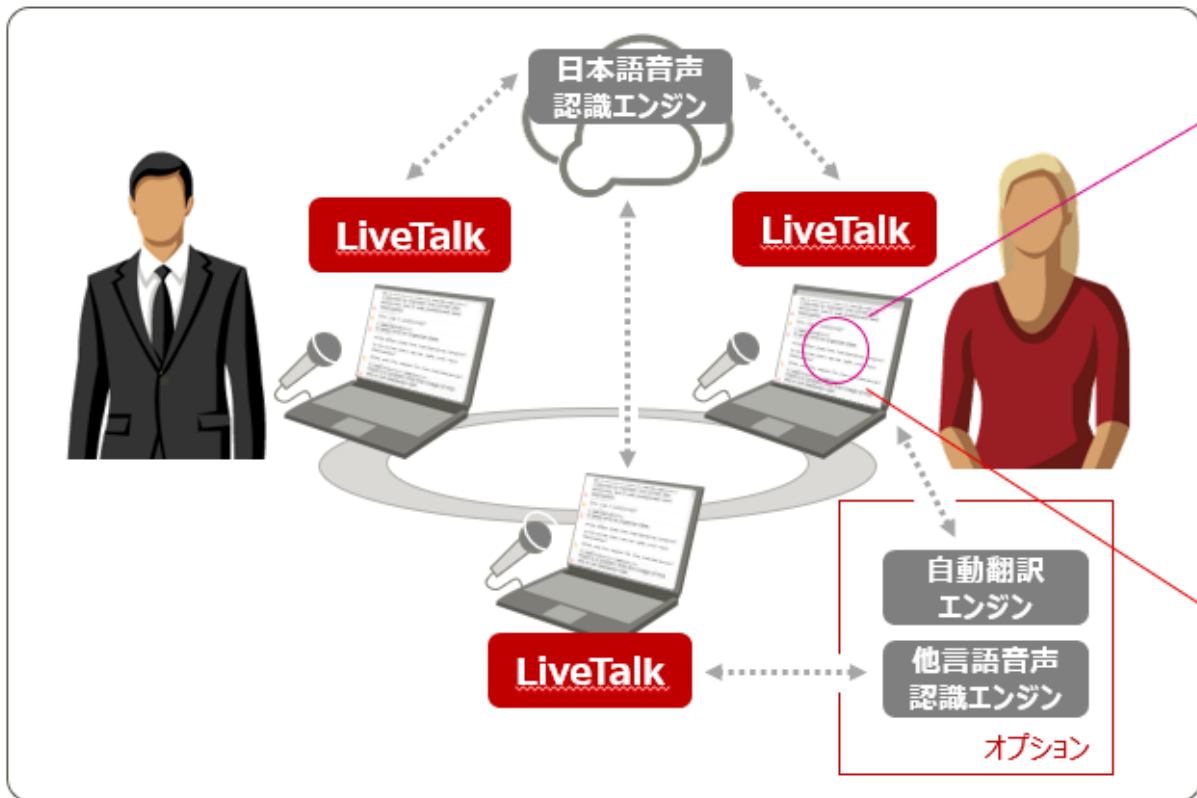
⑭ 富士通(株) LiveTalk

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

企業名	富士通株式会社
機器・サービス名	Fujitsu Software LiveTalk
問合せ先	LiveTalk問い合わせ窓口 https://www.fujitsu.com/jp/solutions/business-technology/smart-digitalwork/livetalk/
機器・サービスの概要	<p>発話者の発言を音声認識し、即座に翻訳・テキスト変換することで、発言内容を複数端末にリアルタイムで翻訳・テキスト表示するWindowsアプリです。 聴覚障がい者とのコミュニケーションやグローバル活動の支援ツールとしてご利用いただけます。</p>
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発話をリアルタイムに文字化することで、きこえる人と同時に内容を知ることができます。聴覚障がい者の多くが苦手な複数人の会議でも、リアルタイムな文字表示と発言が可能になります。 ● リモート会議など遠隔地同士の会話でもそれぞれのLiveTalkで対面利用時と同じ様に内容を知ることができます。 ● 音声認識に誤認識はつきものです。そのため、リアルタイムに修正することで、話者も音声認識された画面も見ながら、正しく伝わっているか確認し、修正することができます。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● UD教科書体フォントを使用しており、ディスレクシアを含む学習障害を持った方でも読みやすい表示にしています。 ● うまく話ができない人のために、定型文/スタンプ/キーボード入力ですぐ早く入力する伝達手段が入っています。 ● 単なる音声認識では、複数人のうち誰が発話者が分からないこと、先に話し始めた人だけ認識されるため、他の人がかぶせて話しても内容が入らないことがあります。LiveTalkでは同時に発話したり、話をかぶせたとしても発話者名とテキスト表示をさせるため、誰が話しているのか、話の流れはどう変化したかの状況判断が容易になります。

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

LiveTalkは使用端末を選ばず(パソコン、タブレット、スマートフォン等)発言の内容を**テキストとしてリアルタイムに伝達し、保存**ができるコミュニケーションツールです。オプション購入で日本語以外の音声認識や自動翻訳が可能になります。



【クライアントアプリだからこその実現】

- クラウドには一切データが保存されない高セキュリティ設計
- 日本語AI音声認識をアプリに内蔵したローカル構成も選択可能
- タイムラグのない素早い音声テキスト化表示

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

2013年から3か年、総務省のデジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発で聴覚障がい者を支援する音声認識をリアルタイム表示する会議支援システムの開発を行ってきた製品がLiveTalkです。

当事者が自ら開発者となり、3～10数人の会議で様々なプロトタイプをつくり評価と改善を重ねています。他の障がい者にも貸出しアンケート及びヒアリングを行っています。例えば、従来の音声認識では複数人が発話するとその認識結果が混在したり先に話した人だけ優先して音声認識される問題がありました。この問題は会議で頻繁に起こり、聴覚障がい者のほとんどが音声認識結果だけを見てため複数人が話していることに気づけないケースが多発していました。そこで複数人の音声認識結果を混在させず、別々に表示する仕様としました。そのほか、ディスレクシア向けにUDフォントを採用したり、評価者の中には話せない方がおられるため、定型文、スタンプ、キーボード入力機能のニーズもあって、追加しています。

2015年、製品化されてからも様々なユーザーよりコメントをいただきながら今年まで絶えず進化しております。

企業としての取組

富士通グループでは、Fujitsu Wayのパーパス・ステートメントに記載しているとおり、「公正と平等を重んじ、ダイバーシティ&インクルージョンを推進します」という考えに基づき、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)の取り組みを進めてきました。

2022年に、「Global DE&I Vision & Inclusion Wheel」を刷新し、より誰もが一体感をもって自分らしく活躍でき、公平でインクルーシブな企業文化を目指すこととしました。新しいビジョンで示しているエクイティ(公平)は、全員に同じものを等しく提供する「平等」とは異なり、あらゆる人が異なる境遇にあること、状況に応じた多様なリソースや機会が必要となることを認識し、対応することを意図しています。こうしたDE&Iに対するより包括的・全体的なアプローチを通じて、自社のビジネスだけではなく、技術やソリューションが社会に与える良いインパクトについても視野に入れ、持続可能な社会の実現を目指しています。

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 発話をリアルタイムに文字化できることにより、きこえる人と同時に内容を知ることができる。会議等の場面でもきこえる人と同等に参加でき、発言することが可能になる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 単なる音声認識では同時発話したり、誰が話したかが文字だけではわからない問題がある。LiveTalkではこの場合でも発話者ごとに表示させる技術を用いており、会話の状況を把握しやすくしている。
- 読みやすい、わかりやすいとされるUD教科書体フォントを使用している。
- うまく話ができない人のために、定型文、スタンプ及びキーボード入力等に対応している。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 音声の強弱等の表現ができると、発話者の感情やその場の雰囲気もわかり、より内容が伝わりやすい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 発話された内容をそのままテキスト化するだけでなく、わかりやすい文章に変換する機能もあると良い。
- 音声を手話に変換し、ディスプレイ表示できる機能が実現されると良い。

⑭ 富士通(株) LiveTalk (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 聴覚障害者自ら開発者となっており、また他の障害者に利用してもらって意見を求めることにより、聴覚障害者だけでなく様々な人が利用しやすい機器開発につながっている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 企業理念の「公正と平等を重んじ、ダイバーシティ&インクルージョンを推進します」という考えに基づき、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) の取組を推進している。
- 障害のあるデザイナーが社内にいるため、アクセシビリティへの配慮がなされている。